

令和4年度 長崎総合科学大学附属高等学校 学校評価自己評価表（中間報告）

評価者 職・氏名（校長・松本 浩）

学校教育基本方針	日本国憲法および教育基本法の内容にもとづいて、国家および社会のよりよき形成者として真理と平和を愛し、自主創造の精神にみちた人間性豊かな人物の育成をめざす。 個人の人格・個性を尊重し、文化的・体育的な自発学習と創造活動を促し、調和のとれた心身の発達に心がける。また、労働を尊び責任を重んじ、科学と技術を国民の幸福と人類の平和のために役立てることを願う、誠実にして実践力のある人間を育てる。
学校教育目標	学園を厳正な学問と人間形成の場とするとともに、人間尊重の理念にもとづいて、自主的かつ積極的に相互の信頼と理解を深め、集団生活の規律を確立させる。 分かる授業の展開はもちろん、あらゆる場を教育の現場と考え、学力の向上を推進し、併せて、徳性の涵養・自他との融合・礼節を尊ぶ、心身ともに健康な人間の育成に努める。
重点努力目標	便利で豊かな現代社会は、生徒たちの人間形成に微妙な影を落とし、関心・意欲において、多様な生徒が入学してくるようになった。教師自らが新しい時代の教育のあり方を研鑽し、率先垂範を心がけるとともに、生徒に対し、自ら学び、自ら考え、自ら行動する人格を育成する。清潔で非行なき学園をめざし、高大連携・進路指導・体験学習を通し目的意識の確立を図り、生徒・保護者・地域の信頼を得るとともに、「明るく 元気に さわやかに」をモットーに「生徒が輝く学校」創りに邁進する。

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価		総 括	成 果 と 課 題
				前期	年度末		
1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価							
① 学校教育目標	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る	建学の精神、中長期的なビジョンを踏まえた目標を設定する	3		新型コロナウイルス感染症の影響で、教育活動や学校行事が制限されることがあるが、「学びを止めない」ために、基本的な感染予防対策やまん延防止策の徹底を図りながら、学校教育目標の具現化に力を注いでいる。	
			前年度の教育課題や生徒の実態を踏まえた適切な重点目標を設定する	4			
			校務分掌及び学年の経営方針のもと学校の教育目標を具現化する方を盛り込んで実践する	4			
			目標達成の度合いを年度途中で評価・確認する機会を設け、その後の教育活動に活かす	3			
② 学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う	自校の教育課題を明確にし、中期的な学校ビジョンを検討する	4		昨年度から新たに導入したコース制について、高大連携を図りながら、外部講師の招へいや校外学習に積極的に取り組み、学習活動の充実に努めている。	
			各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する	4			
			教育目標や経営方針等を生徒・保護者・地域等に説明、広報に努める	4			
③ 学年経営	学年目標の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する	4		体育祭、文化祭を開催することができ、学級や学年の団結力が高まった。	
④ 学級経営	学級目標の具現化	目標に沿った温かい学級づくりを行う	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う	4		各学年・各学級の状況に応じた取組や対応ができていく。	
2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価							
① 教育課程の編成	創意工夫を生かした適切な教育課程の実施	学習指導要領の趣旨が生かされた特色ある教育課程を編成する	多様な生徒の能力・興味・関心・進路に応じた特色ある教育課程を編成する	4		学校設定科目（プラクティカルスタディ・コース学習）の充実に図るために、授業評価を実施し研究していく。	
			基礎・基本の内容を重点化した指導を行い、基礎学力・基礎技術の習得の徹底を図り、分かる授業と思う生徒が7割以上を目指す	3.5			

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価		総 括	成 果 と 課 題
				前 期	年 度 末		
② 教科指導	分かる授業の展開と工夫・改善	創意工夫がなされた学習指導を行う	生徒の自主的・積極的な学習意欲を喚起するため、導入、発展に工夫した授業を行う	3		ICTツールの活用、視覚的な理解を深める手立て、習熟度別学習の導入など、各教科において、生徒の状況やクラスの実態を踏まえながら、興味・関心を高め、理解を深めるような指導の工夫がなされている。 観点別評価については、職員研修を重ね、円滑な導入を図ることができた。 来年度は、全学年において1人1端末の整備が完了することから、ICT機器を十分に活用するための教師側の工夫・研究がさらに求められる。	
			学級の状況などの生徒の実態に応じた指導方法や指導形態を試みるなど、授業の創意・工夫に努める	3.5			
	教材の精選及び教具の活用	生徒の実態に応じて教材の精選や工夫、教具の活用を行う	生徒の実態に応じて、教材を精選したり、教育機器等を用いたりして、指導を工夫する	3.5			
			使用する教材や教具について担当教師間の情報交換の場を設け、効果的な授業のための研究・研修を行う	3			
	適切な学習評価	教職員の共通理解のもとに適切な評価を行う	年度当初に担当教師間で評価基準を話し合い、共通理解のもとで評価を行う	3			
			生徒の多面的な能力を知識・理解に偏らず、授業に取り組む姿勢など総合的に判断した評価を行う	3.5			
		評価をその後の授業にフィードバックし、指導と評価の一体化を図る	3				
③ 総合的な探究の時間	ねらいが明確で創意工夫を生かした活動	学習指導要録のねらいをふまえて、地域や学校の特色を生かした活動を行う	各学年の年間計画に基づき学習活動を展開する。特に総科大との「高大連携」の実施・充実に努める	3.5		未来探究型の授業では、「これからの時代に必要な力」を身に付けることを目標に授業を展開している。また高大連携を深める試みが各学年で実施されている。	
			各学年の学習活動を通して、情報収集能力や課題解決能力等を身に付けさせ、発表の機会を設ける	3			
④ 特別活動	ホームルーム活動の充実	学校・学年の教育目標に沿った年間計画により、活発な活動を行う	年間計画に基づいて、事前準備を入念に行い、活発なホームルーム活動を実践するとともに基本的な生活習慣の確立、および公衆道徳の育成を図る	3		必要に応じて各学年で「学年集会」を実施し、ホームルーム活動の充実を図っている。 生徒会活動については、体育祭や文化祭において役割を果たした。 学校行事については、今年度の状況を踏まえ、一層の内容充実を図る必要がある。	
	生徒会活動の充実	自発的・自主的活動の推進を行う	生徒の自発性・自主性を発揮させ、活発な生徒会活動を展開する	3.5			
	学校行事の充実	生徒の実態に即した効果的な行事を行う	生徒の実態に即した見直しを行い、内容を工夫することにより効果的な行事を行う	3.5			
⑤ 生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒理解に基づき、全教職員でありさつ・マナー・礼儀等のきめ細かな生徒指導を行う	服装、容儀などについて生徒心得を中心に、教職員の共通認識のもと、生徒・保護者に説明したうえで、全職員で指導にあたる	4		大半の生徒が指導を素直に受け入れるが、時として聞き流したり、指導の意味をしっかりと理解できないケースがあった。 また、ネット等の不適切使用も見られた。	
			普段の学校生活において、個別面談などを通して基本的な生活習慣の確立に努める	3			
⑥ 進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う	生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう、ガイダンスや模試など各学年に応じた系統的指導に努める	3		3年生については進路意識を高めるために例年よりも早めに進路ガイダンスを実施した。1・2年生は今後実施予定。模試は各学年とも計画的に実施できている。	
			進路実現に向け、進路情報の提供、講演会の実施、個人面談等を行う	3			
⑦ 教育相談	教育相談の充実	生徒の持つ悩みや困難の解決を援助する	カウンセリング・マインドを持って生徒に対応するように努める	3		不登校生徒への対応・支援に粘り強く取り組んでいるが、短期的改善が難しく、時間を要するケースがある。 ヤングケアラーについて教育相談部全員で調査・分析を行い、共通理解を図ることができた。	
			不登校・いじめ対策委員会を定期的に開催し、関係生徒の情報交換を行う	3			
	特別教育の充実	特別な配慮の必要な生徒への、適切な対応を行う。	特別な配慮の必要な生徒の情報共有し、組織として適切な対応に努める。	3			

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価		総 括	成 果 と 課 題
				前 期	年 度 末		
⑧ 生徒会活動	生徒会活動の充実	自主的な生徒会活動を支援する	生徒会行事に生徒が主体的に参加できるような工夫と呼びかけを行う	2			コロナ禍での体育祭・文化祭となり実施内容変更を余儀なくされた。今後も柔軟な対応が必要である。
			生徒会の各種委員会活動を活発化するため、学期1回程度活動の評価を行う	3			
⑨ 読書教育	読書活動の充実	読書を通して、豊かな人格と落ち着いた生活態度を養う	図書だよりの発行に努めるとともに、図書委員を活用して図書館の利用や本の貸し出しの拡大を図り、年間読書冊数、平均7冊以上を目指す	3			読書啓発活動として、季節のイベントや展示作品作りに力を入れている。
⑩ 健康・安全教育	健康や安全に対する態度の育成	健康・安全な生活を送るための指導を行う	生徒の心身の健康について、保健主事・養護教諭・分掌・担任等の連携を密にした指導を行う	3			気がかりな生徒に関しては、担任等と連携し、SCに助言をいただき、指導している。今年度もコロナウイルスが感染拡大してしまっただが、冬に向けてインフルエンザ対策も徹底し、感染症の流行を抑えていきたい。 交通安全週間に交通ルール遵守を呼びかけ、大学への移動の際は横断歩道での指導に努めた。
			安全確保について生徒や保護者への啓発を促し、組織的に対応できる危機管理体制を整えるとともに、本校危機管理マニュアルの周知を徹底する	3			
			全校集会、ホームルーム指導を通して、交通安全教育や安全衛生教育を徹底する	3			
⑪ 人権・同和教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関するさまざまな課題を認識させ、解決のための実践力を身につけさせる	体系的な人権・同和教育計画に基づき、全生徒に指導し、生徒が人権課題を解決しようとする態度を育成する	3			研修会がオンラインで開催されるので、積極的な参加を促し、教職員の共通理解を深め、全生徒の指導に努めていきたい。目の前の生徒一人ひとりと向き合う中で「気づき」を共有していく。
			教職員の認識の深化と、指導力の向上を図るため、校外研修に参加し、校内における職員研修を行う	3			
⑫ 部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う	部活動への参加率を前年度以上に引き上げるとともに、学習との両立ができるよう連絡・調整を行う	4			運動部活動だけでなく科学技術部や美術部の活動が活性化し成果を上げた。また、部員数等を勘案し一部部活動について整理を行った。
			部活動によって、生徒が達成感を持ち、好ましい人間関係づくりや個性の伸長を図るよう支援する	4			
⑬ ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア活動を通して、奉仕の心と郷土を愛する心を育成する	年間計画に基づき、年3回以上全校生徒が参加するボランティア活動を実施する	3			1学期は地区清掃を計画どおり実施できた。地域ビジネスコースの生徒が留学生支援活動に参加した。
⑭ 資格取得	各種資格取得の奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する	漢字検定、英語検定等の合格率を上げ、何らかの資格を持つよう指導する	3			1学期に漢字検定、2学期に英語検定を実施し、プラクティカルスタディで各種検定講座を開講している。
3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価							
① 校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担を明確にし、分担に応じて適切に校務を処理する	前年度の各分掌の課題を確認し、その課題解決のために業務の改善を図る	4			定期的に「運営委員会」を開催し、各学年・各校務分掌の状況について共通理解と意見交換を図っている。 また、不定期ではあるがコース会議を実施し、課題の解決に取り組んでいる。
			学校全体の校務が円滑に推進できるよう、分掌や学年相互間の連携を図る	4			
			各校務分掌の活動について組織的・計画的に評価を行い、資料等の記録・保存にも努める	3			
② 各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	目的に沿って適切に委員会を設置し、運営する	各委員会の設置目的を確認し、必要に応じて新設、統合、廃止等の見直しを検討する	4			昨年度設置した「働き方改革推進委員会」については、超過勤務時間の縮減について一定の成果を上げ、活動を休止することとした。
			各委員会での話し合いの結果を、教育活動や学校経営等に生かす	3			

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価		総 括	成 果 と 課 題
				前 期	年 度 末		
③ 校 内 研 修	研修体制 の確立と 実践	計画的・組織的 に授業研究等を行 う	生徒の実態や自校の教育課題をふ まえ、全職員による校内研修を学期 に1回以上行う	4		新コース制設置2年目であるた め、一人1台端末(クロームブック) の活用に関する研修や次世代キャリ ア教育(エナジード)の研修に取り 組んでいる。教育研修会でさらに全 職員の意識向上に努め、来年度へつ なげていく。	
			授業見学等の機会を設け、教育実 践の向上を図る	3			
			研修内容によっては研修受講者 が、その内容を校内の教職員に知ら せる機会を設ける	3			
④ 現 職 教 育	教職員の 資質向上 への取り 組み	私学教育研修会 等の研修に積極的 に参加する	私学教育研修会等の研修へ積極的・ 計画的に参加し、内容によっては 報告会を開き、教職員の指導力等 の向上を図る	3		新型コロナの影響で研修 会が中止されたケースもあるが、 できるだけ参加し、資 質向上に努めている。	
⑤ 学 校 活 性 化	目標設定 自己評価 制度の導 入と充実	積極的に学校活 性化に取り組むた め、教師一人一人 が学校運営に参加 する	学校活性化に向け、各教職員が本 年度の重点目標を設定し、その達成 に向けた具体的方策を計画立案、実 行に向け努力する。その成果につい て自己評価を行い、次年度に繋げる	3		学校活性化に向けて、各 学年・各コース・各校務分 掌が相互に連携しながら 目標達成のために取組 を進めている。	
	総合的な探 究への取り 組みを活用 する。	学習意欲の向 上、および視野の 拡大に努める	大学の附属高校としての特色を 活かし、高大連携事業を全学年に実 施する。	3		特に1・2年生のコース学 習において、高大連携や地 域連携を深め取り組んで いる。	
4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価							
① 環 境 の 整 備	潤いのある生活環 境の整備	日々の清掃を充 実させ、美化意識 を高める	全校生徒、全教職員で積極的に清 掃活動に取り組む	3		ゴミの分別が意識的に できている。清掃指導にあたる 教員配置の工夫が課題。	
② 施 設 設 備 の 管 理	活用と安 全管理	施設・設備の有 効な活用が図られ 安全点検等の管理 を適切に行う	施設設備の安全点検や補修を学期 に1回以上行い、環境整備を図る	3		事務室や法人管財課の協 力を得て、安全点検や環境整 備に取り組んでいる。	
③ 情 報 イ ン フ ラ の 設 備 ・ 充 実	教育活動 全般の情 報化	パソコン等を使 った校務処理を 適切に行う	パソコンによる校務処理を積極 的に推進するとともに、データの共 有化を図る	3		ホームページはリニュー アルできた。新しい情報処理 システムは構築中である。タ ブレットやgoogleの機能を使 った校務のICT化を推進し ていく。	
	ホームペ ージの更 新	ホームページを 見やすくし、定期 的に更新する	ホームページの定期的更新を行い、 学校情報の積極的発信に努める	3			
5 開かれた学校づくり							
① 保 護 者 と の 連 携	協力体制 の確立	生徒に関する情 報を相互に交換す る。	学年育友会を年1回以上開き、生 徒の状況について学校と保護者が緊 密に連絡や情報交換を行う	4		メールメイトを活用し、遠隔地 の保護者との連絡を徹底できた。 文化祭で育友会パーズを計画し たが、コロナ禍の影響で実施でき なかった。	
	育友会活 動の充実	支援と活性化を 積極的に図る。	自主的な育友会活動が活発に展開 されるよう積極的に支援する	3			
② 地 域 や 関 係 機 関 と の 連 携	協力体制 の確立	学校方針や具体 的教育活動につい ての情報を提供す る	学校方針や具体的な教育活動の中 身について適切な情報を地域や関係 機関に提供するため、学校新聞・学校通 信を年2回以上発行する	4		県学事振興課、私学協 会、校長会、教頭・副校長 会との連絡を密にし、様々 な問題に対して情報収集 を進めるとともに、適切な 指導・助言を受けている。 また、日見地区コミュニ ティ連絡協議会に参加し、 地域との連携をさらに深 めている。 さらに中学校訪問に力 を入れ、オープンスクール 参加者を大きく増加させ ることができた。	
	学校間連 携の充実	他校や異校種と の必要に応じた効 果的な連携を行 う	生徒募集とは別に、情報交換のための近 隣中学校訪問を学年・生徒指導等で実施する。	4			
	地域の少年 スポーツ活 動への貢献	部活動を通し、地域 の子供達に対し、スポ ーツの促進を図る	近隣地域の小中学校を対象に、本 校部顧問が指導し、地域の子供達の 健全育成を図る	4			
	外部講師 の招へい	教育目標に沿 って、外部講師招 へいによる教育活 動を行う	年間計画に基づき、平和教育・進 路講話・交通講話等に外部講師を積 極的に活用し、教育的効果を高める	4			